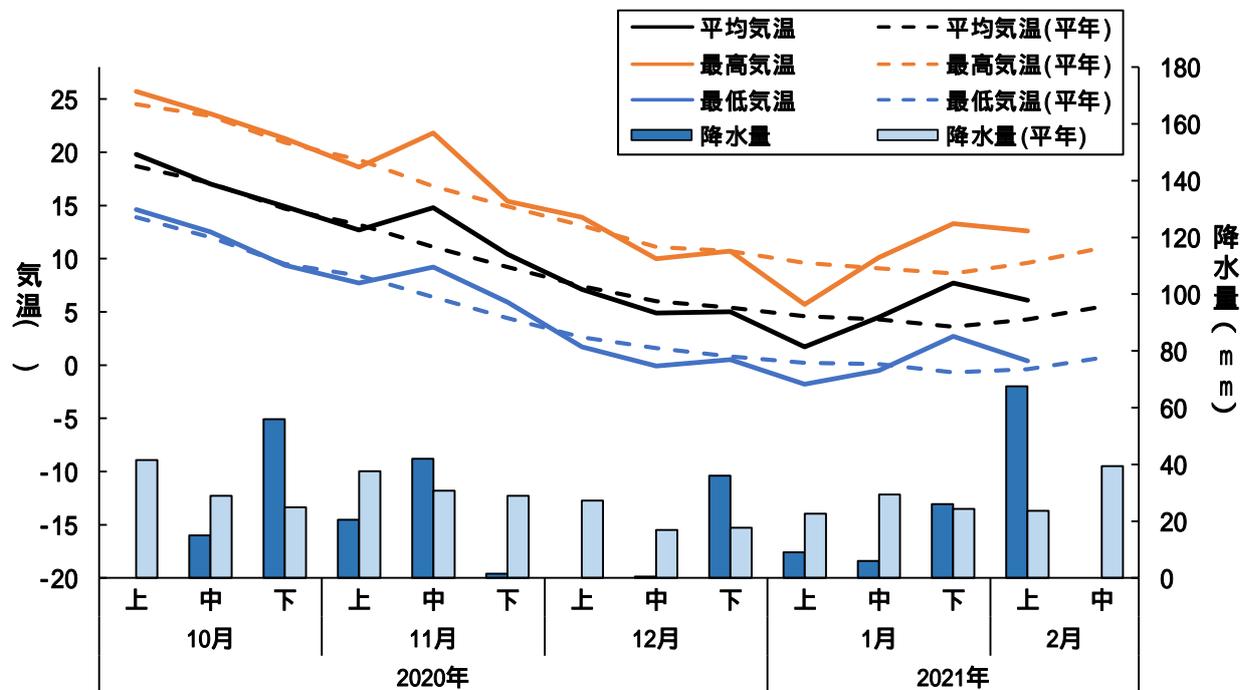


令和3年お茶づくり技術情報 (No. 1)

2021年2月19日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) これまでの気象 (2020年10月～2021年2月、嬉野市)



- (1) 昨年 10 月以降の平均気温は、11 月中旬および 1 月下旬は平年よりやや高く、1 月上旬は平年より低かった。
- (2) 昨年 10 月以降の降水量は、ほぼ平年並か少なく推移した。
- (3) 越冬芽の生育は、やや膨らみかけた状態である。暖冬だった昨年と比べると生育はやや遅れている。



写真 さえみどりの越冬芽 (昨年)
(2/21 撮影、秋整枝 10/21)



写真 さえみどりの越冬芽 (本年)
(2/16 撮影、秋整枝 10/16)

2) 今後の気象の見通し

■ 1か月予報（気象庁、令和3年2月18日発表）

向こう1か月の天候の見通し

福岡管区気象台

九州北部地方（2月20日～3月19日）

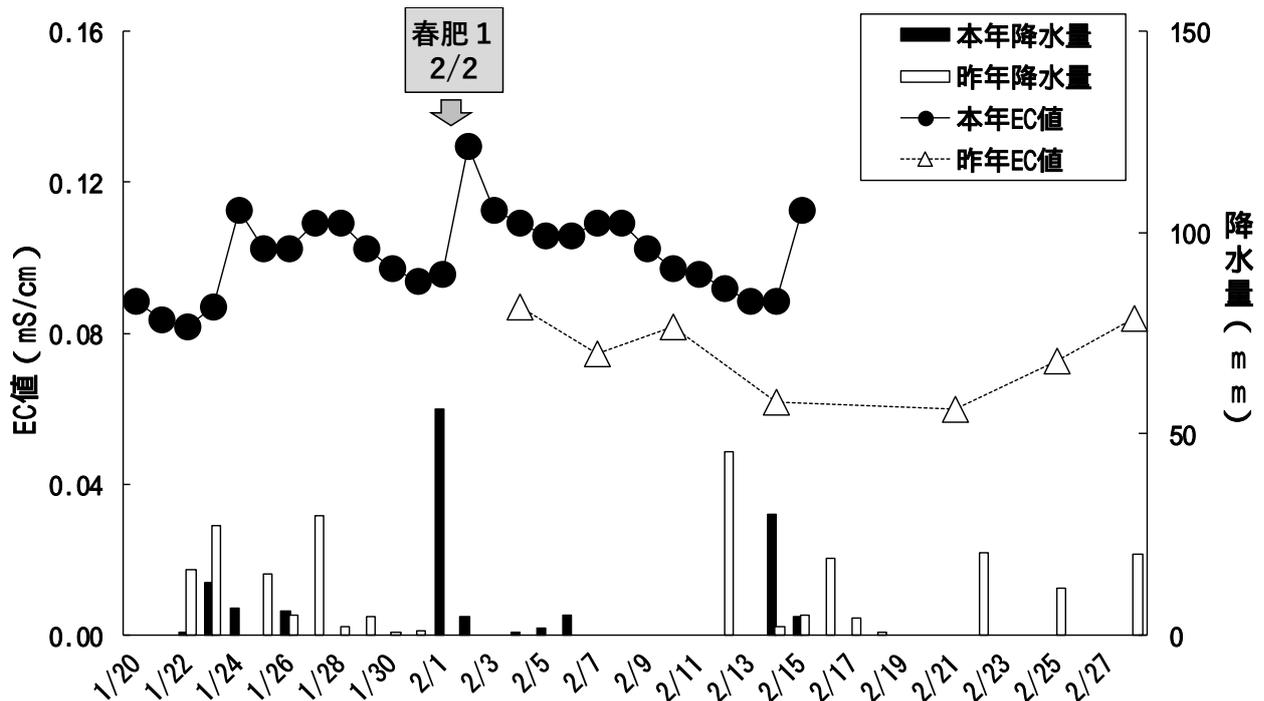
1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方	低 10 並 20 高 70% 高い見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み

- 向こう1か月の平均気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、特に期間のはじめ（2/20～26）は気温がかなり高くなる見込み。
- 向こう1か月の降水量はほぼ平年並、日照時間は高気圧に覆われやすいため、平年並か多い見込み。

2. 今後の管理

1) 土壌・肥料



注) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値をもとに換算した値を示す

- 土壌 EC は、適度な降雨があったことから春肥 1 施用後（2/2）から上昇し、昨年よりやや高く推移している。
- 1か月予報では、今後気温や地温の上昇が見込まれることから、根の動きも活発となるため、春肥 2 の施用は遅れないように行う。

2) 整枝（化粧ならし）

- (1) 3月上中旬を目安に、新芽が秋整枝面より上部に出る前に必ず行う。
- (2) 新芽を傷つけないように、ハサミは秋整枝面より深く入れない。
- (3) やむを得ず、作業が遅れ、秋整枝面より新芽が伸び上がった場合には、やや高め
にハサミを入れ、新芽を傷つけないようにする。
- (4) 再萌芽した茶園での対応策
 - 再萌芽した芽が開葉している → 化粧ならしで除去する
 - 再萌芽した芽が開葉していない → 秋整枝面より5mm程度上げて、出芽した芽を切らない

3) 防霜対策

- (1) 防霜ファンは萌芽2週間前からの稼働を基本とし、必ず早めに事前点検（温度センサー、首振り状態）を行う。
- (2) 防霜ファンの設定温度は茶株面で3℃（茶株面より樹体は2～3℃低い）を基本とし、過度に設定値を上げない（晩霜害の発生助長やランニングコスト高となる）。
- (3) 凍霜害の影響を受けた場合は、以下の対応策を参考に管理を行う。

生育ステージ	被害程度	対応策	
萌芽期～ 2葉開葉未満		被害の程度にかかわらず、そのままにしておく	
2葉開葉～ 4葉開葉	1)部分的で被害部と無被害部がはっきりしている場合	そのままにしておき、拾い摘み、または部分摘採を行う	
	2)部分的で被害部と無被害部がはっきりしない場合	①被害芽率が低い場合	そのままにしておく
		②被害芽率が高い場合	被害部を除く程度に軽く整枝する
	3)被害が全面的の場合	被害部を除く程度に軽く整枝する	
摘採期直前	1)被害が部分的の場合	拾い摘み、または部分摘採する	
	2)被害が全面的の場合	刈り捨てて二番茶の生育を待つ	

4) 病害虫対策

病害虫防除については、『令和3年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。